

## 内湖再生全体ビジョン(案)の検討状況について

### <背景と経緯>

- 内湖は、古来、暮らしの中で利用されるとともに、琵琶湖固有の動植物、特にコイ科魚類を中心とした在来魚の産卵や仔稚魚の成育の場として重要な役割を果たしてきた。
- しかし、干拓や埋め立てなどの開発により、過去数十年の間に総面積の7分の6程度が消失すると同時に、残った内湖も琵琶湖や水田などとの連続性が失われるなど、本来持っていた機能の多くを失った。
- その結果、現在の琵琶湖流域では、在来魚介類の減少、植物プランクトン種などの生物多様性の低下や汚濁物質の琵琶湖への直接流入など、内湖機能の喪失に起因すると考えられる様々な影響が現れており、県では早崎内湖の再生などの事業を進めている。
- 「内湖再生全体ビジョン」は、こうした現状を踏まえ、全ての内湖を対象に、本来一對の関係にある内湖と琵琶湖の豊かな生態系を回復するとともに、内湖・琵琶湖と人とのより良い関係を築くため、そこに至るまでの道筋を示すものとして策定する。

### <検討経過>

平成 23(2011)年度

第1回検討委員会(平成24年1月23日) 内湖の機能・現状、課題の整理

第2回検討委員会(平成24年3月12日) 重点事項・検討の方向性の整理

平成 24(2012)年度

第3回検討委員会(平成24年7月31日) 詳細調査等の検討等

第4回検討委員会(平成24年10月16日) ビジョン(素案)について

第5回検討委員会(平成24年12月18日) ビジョン(案)について

### <ビジョンの要旨>

時代が変化し、生活の中で利用されなくなり、琵琶湖流域の生態系を支える機能などが低下してしまった内湖に改めて価値を見出すことを出発点として、4つのビジョンを示すとともに、既存内湖、新規内湖、消失内湖のそれぞれについて、再生のイメージを明らかにし、個々の内湖の地域特性を踏まえた地域主体の具体的な取組につなげていく。

#### ◆ビジョン1<基本理念>

「内湖の価値を再発見し、その本来の機能を再生し、琵琶湖や人とのつながりをつくる内湖づくり」

#### ◆ビジョン2<基本方針>

次の三つの価値を重視し、その機能を再生する。

①自然環境・生態系としての価値 ②緩衝地帯としての価値 ③人の暮らしを支える価値

#### ◆ビジョン3<特に重視すべき価値>

「琵琶湖流域の生態系を支える価値」

#### ◆ビジョン4<内湖再生の全体としての目標>

「内湖を再生することにより、在来魚や希少動植物など豊かな生態系を回復するとともに、暮らしを湖に近づけ、琵琶湖と人とのより良い関係を築き、地域資源を活用した社会成長を目指します」

#### ◆内湖再生のイメージ

既存内湖：農村型コミュニティを背景に、人と人、人と内湖、生きものとのつながりを取り戻す

新規内湖：人々の憩いの場、南湖における在来魚の産卵、生育の場としての価値を高める

消失内湖：内湖の再生やクリークなど残された水域の内湖的機能を高め、地域とのつながりを再生する

### <今後のスケジュール>

○12月18日に開催した第5回検討委員会での検討結果を踏まえ、県案を取りまとめる。

○県民政策コメントを行い、今年度中に内湖再生全体ビジョンを策定する。